

“気になる！ママの健康”

女性特有のがんと検診について

教えて！
doctor

女性だからこそ知っておきたい
がんと検診について教えてもらいました

A Q 女性特有のがんの種類や特徴を教えてください

女性特有のがんは乳がんや子宮がん（子宮頸がん、子宮体がん）、卵巣がんなどがあります。これらのがんはみな最近日本で増加しております。なかでも乳がんは日本人女性の部位別がん罹患率の第1位です。年間約8万5千人が罹患し1万4千人が死亡しています。

また子宮頸がんはとくに20歳〜40歳の若い世代の罹患が増加していることが問題です。年間約3万3千人が罹患し（上皮内がんを除く）浸潤がんは約1万人、約2千9百人が死亡しており、患者数、死亡数とも近年増加傾向にあります。

A Q 検診は実際にどのように行いますか

マンモグラフィは乳房を挟んで圧迫し1側2方向のX線撮影を行います。乳がん検査はそのほかにも超音波検査やMRI等がありますが、現時点で検診としてはマンモグラフィが推奨されています。しかしマンモグラフィは乳腺密度が高い40歳代の女性には検診精度が低くなるという課題もあり、マンモグラフィ検査に「超音波検査」を組み合わせたような施設もあります。

子宮頸がん検診は婦人科内診台に座り膣鏡で膣を展開し子宮頸部をまんべんなく観察し得られた細胞を

A Q 何歳位から検診を受けるべきですか

検査します。この検査にて陰性（NILM）以外は二次検診が必要となります。

乳がん検診（一次）は、国の指針によりまずと、対象は40歳以上で、2年に1回の問診とマンモグラフィが基本になっています。

子宮頸がんの検診は、対象年齢が20歳以上の性交渉の経験者で年齢の上限はありません。

A Q 検診に子どもを連れて行ってもいいですか

検診の種類や子どもの年齢によつては支障のない場合もありますが、あらかじめ施設にご相談されてから受診された方が良いでしょう。

★育児奮闘中のママたちに向けたメッセージ

私は「ママの笑顔はお子さんや家族にとって太陽のように大切！」であると思っております。ママが笑顔であるためには、まずママの心と身体の健康が一番です。子育ては一人で頑張りすぎないで、家族や友人または周囲の方に支援していただきながら、くっついて一人で悩まず、ご出産された医療機関等に気軽に相談されることをお勧めします。

（文・長尾百合子先生）

町田地域の女性の皆様が、健康に幸せになれるように、皆様との心のつながりを大切にしたい信頼される医院を目指しております。どうぞお気軽にご相談ください。

医療法人 都南産婦人科 院長 長尾百合子先生（1男1女の母）

